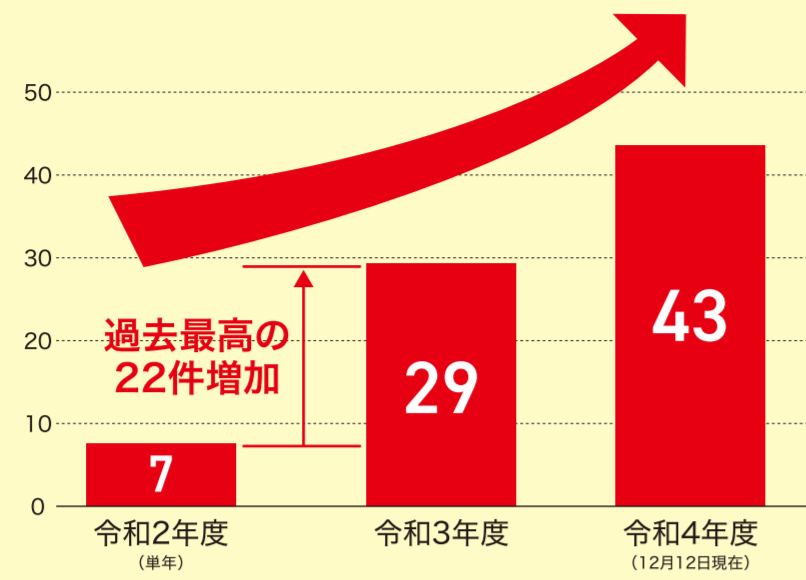


企業誘致

県の企業誘致件数は近年増加しており、半導体関連企業の誘致件数も令和3年度には過去最高の22件となりました。令和3年11月のTSMC進出公表以降、25件の立地協定を締結するなど、本県への半導体関連企業の集積が進みつつあります。

【直近3年間の半導体関連企業の誘致件数(累計)】



くまモンCPOロゴマーク ※CPO:プロモーション最高責任者

「シリコンアイランド九州の復活」を祈念して制作されたシンボルマーク。くまモンが熊本と世界をつなぐ架け橋の役割を担うことを表現しています。

環境の保全

菊陽町に工場を建設中のJASMは使用した地下水量をかん養する方針としており、また、稼働開始時に再生可能エネルギーを100%使用すると発表。県では、地下水保全について、今後の半導体関連企業の集積なども見据え、水田湛水による地下水かん養に加え、雨水浸透ますの設置や、地下水のみに頼らない河川等の未利用水の利活用など、様々な対策を検討しています。



JASM新工場完成予想図

さらに、県では産業の発展と環境保全の両立に向け、再生可能エネルギーの導入推進、排水・排ガスの規制などの取り組みも進めます。



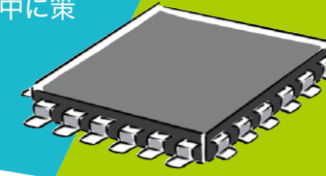
水田湛水による地下水かん養の様子

くまもと半導体産業推進ビジョンの策定



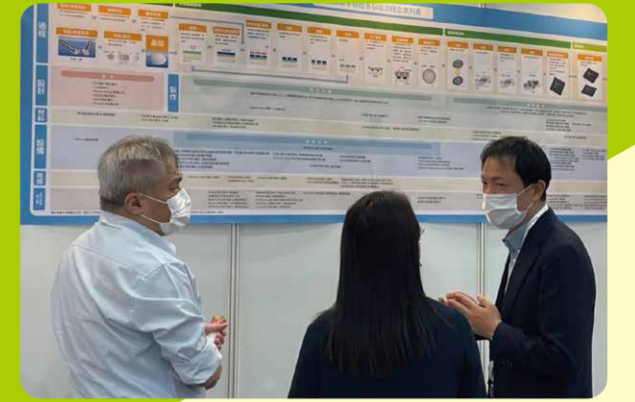
第1回くまもと半導体産業推進ビジョン有識者懇話会(令和4年10月31日)

TSMCの進出を契機に、半導体産業をはじめとした県内産業のさらなる振興と県下全域における県経済の成長を実現するため、「くまもと半導体産業推進ビジョン」を今年度中に策定します。



台湾企業との連携強化

台湾企業と県内企業との連携強化のため、9月に台湾で開催された半導体関連の国際的なビジネスイベント「セミコン台湾」に出展し、県の半導体関連産業集積に向けた取り組みのPRを行いました。令和5年1月には知事と経済団体を中心としたメンバーで台湾を訪問し、熊本の魅力発信とビジネス交流の拡大を図ります。



セミコン台湾でのPRの様子



多文化共生・教育環境の整備

地域住民と外国人の方々との相互理解を深める場として、市町村による交流型の日本語教室の開設を支援するとともに、外国籍の子どもたちが安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に取り組んでいます。



●熊本インターナショナルスクールや九州ルーテル学院では、TSMCの進出に伴い来熊された外国籍の子どもの受け入れを開始しました。令和5年3月には、公立学校でも受け入れを開始する予定です。

●県では、外国人に選ばれた企業の育成を図ることを目的として「外国人受け入れのための異文化理解・やさしい日本語講座」を開講。令和4年度は県内5地域において、合計10回の講座を実施しました。



〈TSMCの熊本進出決定から1年〉シリコンアイランド九州の復活に向けて

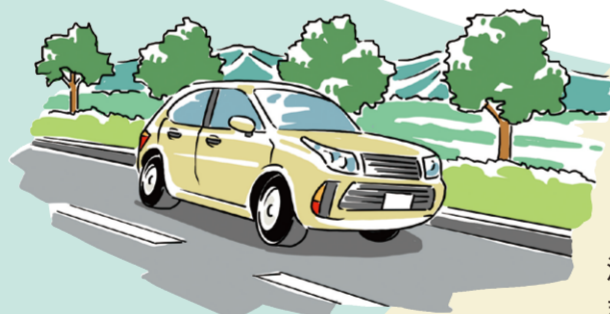
進む熊本

半導体は、スマートフォンや自動車、医療機器など、さまざまな製品に使われており、暮らしに欠かせないものとなっています。半導体受託製造世界最大手である台湾のTSMCが、国内初となる新工場を熊本県に建設することが昨年11月に発表されてから、約1年が経過しました。

熊本県では、関係機関と連携して、半導体関連企業の更なる集積に向けた企業誘致、「くまもと半導体産業推進ビジョン」の策定、地域の交通渋滞対策などの取り組みを着実に進めています。



熊本県知事 蒲島郁夫



インフラの整備

渋滞対策として菊陽空港線をはじめ、県内幹線道路の整備を行っています。令和4年には大津植木線多車線化と合志ICアクセス道路の概略設計及び国道387号(須屋付近)の道路計画の検討に着手しました。



- (高規格道路)
 - 事業実施中
 - 調査中
- (一般道)
 - 事業実施中(今年度着手)
 - 事業実施中
 - 今年度検討着手



半導体関連人材の育成

熊本県半導体人材育成会議

半導体関連の人材需要の高まりに備え、県内企業や大学、高校等と連携し、熊本の半導体産業をリードする人材の育成に取り組んでいます。



第1回熊本県半導体人材育成会議(令和4年3月17日)

半導体関連企業、県内大学・高専・専修学校・高校、県立技術短期大学校が連携

新学部・学科設置など

- 熊本大学はデジタル技術と半導体に携わることのできる人材を育成する「情報融合学環(仮称)」及び「工学部半導体デバイス工学課程(仮称)」を令和6年度に設置することを発表。
- 県立技術短期大学校は、令和6年度の半導体関連の新学科設置に向けて準備中。



大津植木線